

大阪府立金岡高等学校アスベスト飛散事故に関する協議会（第4回）

平成26年2月

大阪府立金岡高等学校
大阪府教育委員会事務局施設財務課

日時：平成26年2月16日（日）午後6時30分から午後9時まで

場所：（公財）堺市産業振興センター 4階 セミナー室4

協議会出席者

◆専門家：穂久氏、東氏、木野氏、小坂氏、永倉氏、西岡氏、久永氏、山中氏（五十音順）

◆代表：保護者・近隣住民代表者

◆学校：学校関係者（児玉校長、川端教頭、川崎教頭、永吉事務長【司会】）

◆府：教育委員会関係者

（福本課長、黒田課長補佐、岸本課長補佐、下窪課長補佐、宮崎副主査）

司会	<p>失礼いたします。</p> <p>西岡先生が少し遅れておりますが、定刻となりましたので、第4回大阪府立金岡高等学校アスベスト飛散事故に関する協議会を開催させていただきます。</p> <p>本日の会議の進行役を務めさせていただきます、金岡高校事務長の永吉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は公開で行いますが、入口の方に貼り出しております傍聴規定を遵守いただきますようお願いいたします。</p> <p>では、最初に、本日ご出席の専門家の方々のご紹介をさせていただきます。</p> <p>五十音順でお名前を読み上げさせていただきます。</p> <p>まず、西淀病院副院長 穂久 英明 先生 近畿大学 医学部 講師 東 賢一 先生 耳原総合病院副病院長 木野 茂生 先生 元 兵庫県立健康環境科学研究所センター 小坂 浩 先生 中皮腫・じん肺・アスベストセンター 事務局長 永倉 冬史 先生 元 大阪市立大学大学院工学研究科 教授 西岡 利明 先生 元 愛知教育大学保健環境センター 教授 久永 直見 先生 大阪大学大学院工学研究科 教授 山中 俊夫 先生</p> <p>本日は、もうすぐ来られますが西岡先生を入れまして、8名の先生にご出席いただくことになっております。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。</p> <p>なお、本日の会議は、午後8時30分までを目途に議事を進行して行いたいと思っておりますので、円滑な会議運営にご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>出席者の皆様は、資料のご確認をお願い致します。</p> <p>まず、次第（A4縦1枚） 大阪府立金岡高等学校アスベスト飛散事故に関する聞き取り（面接）の実施状況（A4</p>
----	---

	<p>横 1 枚)</p> <p>聞き取り内容 (要約) (A4 縦 P 1 ~P11)</p> <p>パワーポイント資料 (A4 縦)</p> <p>前回の協議会議事録 (概要版) です。(A4 縦 P1~P 8)</p> <p>以上、揃っておりますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、議事 1. 聞き取り (面接) の内容についてと言うことで、資料に不足が無いよう ですので議事の『1. 聞き取り (面接) の内容について』教育委員会からの内容説明の 後、専門家の先生方からの意見をいただきたいと思います。</p> <p>なお、議事の進行については、前回の協議会同様、東先生にお願いしたいと思いま すので、東先生よろしくお願ひします。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>はい。近畿大学の東でございます。それでは今からですね、議事の方に入ってまいり たいと思います。今回、2 回目ですね、聞き取り内容に関する確認と言うことでござ いますので、今回をもって聞き取り内容に関しては、一旦まとめていきたいと思っ ています。前回ですね、アスベストの付着状況からですね、軒天の洗浄の部分のとこ ろまでですね、本日はですね、軒天復旧作業の内容、こちらのスライドの方をす ね、5 個目 ところから、最後までですね、それを進めて行きたいと思ひます。まずす ね、軒天復 旧作業の内容でございますけども、併せて軒天復旧時のアンカー設置の方す ね、5 番 と 6 番、二つ併せて、事務局からの説明と私の方から確認を行っていき たいと思ひます。 では、事務局の方からお願ひします。</p>
<p>府</p>	<p>すいません。教育委員会の岸本と申します。お世話になります。資料の要約版のペー ジ の 6 ページ目、■ 5. 軒天復旧作業の内容というところから、ご説明させていただきます。 ここにですね、当時の聞き取りの内容について要約していますので、これについて読み上 げさせて頂きます。まず、安積建設の A さん、これは安積建設の現場代理人の方につ き ましては、軒天作業についての質疑はありませんでした。アイデックスの B さん、C さん、 これは環境測定業者ですが、この方たちにも軒天作業についての内容の質疑はあり ません でした。次に府教委の宮崎副主査に対して聞き取り内容として、①囲い込み作 業をする というので、申請手続きを行いました。セキュリティールームは、労基と市 環境が 現地を見て、「この状況で既設の下地の吊り具、同一場所に溶接で接合して天井 ボード を設置するのであれば、アスベストに触れないので、特に必要ないでしょう。」 という ことで、触れないという前提で、既設の所を狙っていくという方針を決めた。応 急対策 のビニールシートを全面的に外して施工するのではなく、部分ごとにビニールシ ートを 外して、すぐに施工するという手順を指示されました。密閉養生や区画もしてい ません。 作業者の防塵対策は、マスクと眼鏡はしているとのこと。東畑の D さん、 E さん は現場の監理委託会社ですが、これに対して質疑はありませんでした。大伸建設 の F さん、 屋上の高圧水洗浄の作業をされていた職人の方ですが、この人に対しても質 疑が なくて、大島建材の G さん、軒天復旧作業の下請さんで会社の職長さんです。この</p>

方に対して、①番から⑱番までの質疑がありました。1番目、1階から4階の軒天部分について軽鉄の下地を組んでケイ酸カルシウム板を貼った。足場のメッシュ養生の内側に、さらにビニール養生で軒天部分は覆われていた。軒天ボードを貼り付ける作業は、一気に全部養生を取るのではなく、施工しながら養生をめくっていた。作業中に養生の中から外にゴミや粉塵が出た可能性はある。11月23日から11月26日まで天井復旧作業を行った。軒天を付ける際には削りカス等のゴミはそんなに出ていないと思う。作業前後の清掃や、天井の穴あけ作業の可否などについて、監理事務所から特に指示はなかった。アンカーを打ってもらった後、吊りボルトを吊って軽量鉄骨下地を組んでケイカル板を貼った。工事に入る前にアスベストがあることは認識していた。作業員にはなるべくアスベストは落とさないように、触らないようにと注意喚起をしていた。作業員は密閉防塵マスクではなく一般的なマスクをして作業をしていた。デッキプレート裏に付着しているアスベストを削り落としたりしたことはない。安積建設から石綿作業に関する指示は特になかった。アンカー工事と天井復旧工事は同時に作業は行わない。先にアンカーを打ってから天井復旧工事を行う。ビニール養生は、アンカーを打つ際に一度外し、アンカー施工後に養生を戻し、軒天復旧時に再度外して施工していたと思う。ビニール養生を外したのは大島建材の作業員。外したビニール養生に埃や石綿等が付いていたかは定かではない。軒天復旧作業時は、校舎の窓は全部閉めていた。というような軒天復旧作業内容の証言がありまして、この中で特に大島建材のGさんが、例えば、前の⑧アンカーを打ってもらった後とかですね、⑭で先にアンカーから天井を取り付けるとかですね、⑮でビニール養生は、アンカーを打つ際に一度外したとか、おっしゃってまして大島建材のGさんがこの工事での際にも事前にアンカーを打つ作業はあったとの証言をされていまして。我々の工程等を確認している内容ではですね、アンカー打ち作業ってのは、無かったので、それについてね、特に6番、次のページ7ページ目ですね、軒天復旧、アンカー設置の有無という風なところで質疑が上がっています。このアンカー設置作業があるという話でもし本当にあったということであれば、その時に、一部アスベストが飛散している可能性があるという風なことになるかと思しますので、この部分については、本当にあったのかどうかという風なことを確認する必要があるというように、この部分について質問事項をあげております。それにつきましては、関連する質疑としまして、安積のAさんアイデックスのBさん、Cさんには質疑が無くしてですね、府教委の宮崎副主査に対して、セキュリティールームは労基と市環境が現地を見て、この状況で既設の下地の吊り具、同一箇所には溶接で接合して、天井ボードを設置するのであれば、アスベストに触れないので特に必要ないでしょうという事で、触れないという前提で既設のところを狙っていくという方針を決めたという事で、まずは触れないという風な工事をするという風な前提があったという事を回答しております。東畑のDさん、Eさんアンカーは既存のものを使用している、全部は取っていない。アンカーとボルトが残っていた。それを利用して、軽量鉄骨をつないでボードを張っていた。

新たに、ビスを付けたという事は聞いていない。詳細は分からない。デッキプレート自体に触れていないと思う、アンカーそのものは残っていたのでそこにねじ込みで行けると思う。デッキは触らずという事でした。という風な回答をいただいています。大島建材のGさん、先程、アンカー設置作業があったと風なことをおっしゃっていた方の証言です。アンカー工事は別の業者で、アンカーを打つ専門業者がいる。弊社ではアンカー工事はしていない。大島建材さんはしていないという風におっしゃっています。アンカーを打つ際、周りにアスベストが付着している状況だと、アスベストは落ちると思う。打つ場所によっても違うと思うが。と。アンカーは既存のものを再利用した箇所もあるし、既存がない所は打ってもらった箇所もある。使える場所は再利用した。アンカーは既存のもので使えるものも結構あった。アンカーの穴は2列、4階は3列で900mmピッチくらいで開けていた。アンカー工事の作業風景は直接見ていない。アンカー業者はどこか知らない。アンカー業者の姿は見えていない。アンカーを打った後、ビニール養生は復旧していたと思う。ということでこの5番と6番の中では、通常に復旧していたという事ではなくて、新たにアンカーを打ったと、かもしれないという疑義が出ていますので、そのあたりについて、ちょっとこれからまた前の方で、パワーポイントの方で写真等も踏まえてご説明していきますので、ご確認ください。まず軒天復旧作業の内容という事で、軒天復旧作業をする前、全面に足場があって、足場の周りには、こういった形のシートが張ってあったというふうな状況です。その中で、まず最初にこれはビニール養生してる状況ですね、このビニール養生を部分的に取りながら、取ったところのボードを張りこんでいくという作業という事で、部分的に取っていきましたと。取ったところについて、これがその吊る金具ですね、この金具の奥側にですね、アンカーが打ってあって、そのアンカーに対してこのボルトをねじ込んで行って、そのボルトの先にこういう金具を吊っていくという作業があったと。これがその確認風景ですね。その金具に対して、こういう下地の金物を吊って、その金物に対して、こういう風なボルトを留めていくという作業ですね。一応、こういう風な形でマスクと保護具をつけて作業していたという状況です。これが完成した状況と、その後シーリングで目地打ちをしているという写真です。で、確認の風景と、現地の確認をしている風景ですね。という風な工事工程という風になっています。その証言の中で、作業者の防じん対策、作業者の防じんに対するマスクとメガネはしている。という風な写真です。で、1階から4階の軒天部分についての軽鉄の下地を組んでケイ酸カルシウム板を貼ったという、これは下地の写真です。足場のメッシュ養生の内側に、さらにビニール養生で軒天は覆われていた。これが足場のメッシュ養生、そこの内側にこういう風な形で、ビニール養生があったという風な写真です。軒天ボードを貼りつける作業は、一気に全部養生を取るのではなく、施工しながら養生をめくっていた。部分的に範囲を狭めながら、この養生を少しずつ取りながら作業を進めた。という風な写真です。アンカーを打ってもらった後、吊ボルトを吊って軽量鉄骨下地を組んでケイカル板を貼った。ということで、このケイカルの下地を貼

る前にはアンカーがあったという風な状況ですね。作業員は密閉防じんマスクではなく、一般的なマスクをして作業をしていた。で、一応こういうふうなマスクはしていたという風な写真になっています。軒天作業復旧時は、校舎の窓は全部閉めていた。ということで、これは窓を閉めていた写真です。軒天復旧時のアンカー設置の有無ということで、どういう風なアンカーが残っていたかということで、これ、この白い丸の中にピカッと光っている部分、これが元々のアンカーです。このアンカーが全体に残っていたと、いう風なことで、作業は進めていたと思うのですが、この大島建材のGさんは、これを新たに打ってもらったもんやという風に思っていたということかと思えます。これはそのアップの写真で、元々あったアンカーの写真。1、セキュリティールームは、労基と市環境が現地を見て、この状況で既設の下地の吊り具、同一箇所に溶接で接合して天井ボードを設置するのであれば、アスベストに触れないので、特に必要ないでしょう。ということで、触れないという前提で、既設のところを狙っていくという方針を決めた。アンカーは既存のものを使用している。全部は取っていない。アンカーとボルトが残っていた。それを利用して軽量鉄骨をつないでボードを貼っていった。デッキプレート自体には触れていないと思う。アンカーそのものが残っていたので、そこへねじ込みで行けると思う。アンカーは既存のものを再利用した箇所もあるし、既存でないところは打ってもらった箇所もある。使える箇所は再利用した。大島建材のGさんはおっしゃっています、こんな風に。ただ、大島建材さん自体はアンカーを打っている作業はしていません。とい風なことをおっしゃっています。アンカーは既存のもので使えるものも結構あった。という風におっしゃっています。で、アンカーを打つ際に、周りのアスベストが付着している状況だと、アスベストが落ちると思う。まあ、こういう風な近接した状況では、アンカーを打つと落ちるかもしれませんねという風な写真、これは一応、元々あったアンカーの写真です。これがこの間の工程なんですけど、11月17日、この星マークの日に、測定業者さんがアスベストを発見して、ここのGのところの、軒裏応急処置、ビニール養生ということで、次の月曜、火曜・、18、19の日曜月曜で応急のビニールの養生を完了しております。それと並行してこの部分で労働基準監督署との対応協議をいうことで、これは実際、労働基準監督署の職員の方が来ていただいて、現地を見ていただいて、工法について、今、既存のアンカーを使うという風なことの工法で、許可を頂くか、まあ届出するという話をしているというところなんです。で、実際に大島建材さんが、作業されたのがこの23、24、25、26日ということですので、もし、アンカーを打つ作業があったということであれば、この二日間ぐらいで、もし、やろうと思えばやれるかもしれません。ただ、アンカーを打つ作業というのは、ご存知のとおり、鉄骨とかデッキプレートにと、コンクリートのところに穴を開けていくという風な作業になりますので、まあ普通やっていると、結構な音もしますし、振動もあるということで、この状況で、そのアスベストの飛散がうんぬんかんぬんとなっている状況で、そういったことが学校で出来たかという、恐らく出来なかったんじゃないかという風に思

	<p>っています。たぶんそういう意味では、大島建材さんのGさんという方は、まあ、元々軒天の復旧作業ということを業務にされていまして、基本的には軒天のアンカーというのは現地に行ったら打っていただいているものだという判断のもとで、そういう風な想像でお話しされていたのかなあと。それで仮にですね、大島建材さんが、もし、軒天のところに打ったということであれば、可能性としては、土、日の作業の中であったかもしれませんけど、そういった手も持っていないという風なことをおっしゃってますんで、恐らく、このアンカーボルトの設置ということについては、恐らく、大島建材さんの思い違いであったのかな。と。ここのところにつきましては、それがあることによって、アスベストの飛散にかかる、因子というか、要因が増えていく話になってきますので、ご議論いただければなと思っていますので、よろしくお願いします。以上、説明これで。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>ありがとうございます。それでは、写真の方の確認、前の方に写真がございますので、いまはスライドで流れていきましたので、また写真であらためてゆっくり確認していただけたらと思います。よろしいでしょうか。この写真とかですね、見ながらいろんなご意見をいただいておりますけれども、その繰り返しでも構いませんので、ご意見いかがですか？</p>
<p>専門家 久永先生</p>	<p>労働基準監督署にこれまでに現場に行った記録があると思うんですね。そういうものを情報公開の代わりにお願いして出してもらうことはできないのですか。</p>
<p>府</p>	<p>我々の方が記録について開示をお願いしたいという話をしておくのであれば、お願いすることはできます。ただし、どこまで出していただけるというのはわかりません。どこまでのものが出てくるかはわかりませんが、必要があれば労働基準監督署にそういった話をさせていただきます。</p>
<p>府</p>	<p>現地を見ているのは、市の環境だと思えます。</p>
<p>府</p>	<p>労働基準監督署は、恐らく来てないと思います。私の記憶では市の環境だったと思います。</p>
<p>代表</p>	<p>労働基準監督署の話で言うと、資料は全部読み切れてないですが、過去のやりとりで憶えているのは、一回出した指示を撤回して指示を新たに直し直したでしょ？一回出したけれど、囲い込みをするようにと一回言ったのを変えてやっているというのは、なぜそうなったかという話はこれまでの会議でも出ていたけれどもはっきりわからないままきている。久永先生が開示請求の問題もあるので、労働基準監督署は何を判断するのか？見もせずに判断するのか？と、今、宮崎さんが言われたのは、堺市が現地に来てやったのなら、これからのことも含めての提案もあるので労働基準監督署がどういう判断をしたのか？労働基準監督署の判断ミスという申し訳ないですが、人間がやっていることなので、今回のことでもいろんなミスが重なったからこういうことになっているので、労働基準監督署と堺市と業者さんとの間のどこに齟齬があったのか、労働基準監督署はなぜ最初に言ったことを改めて、レベルが上の工法にしろなさいとなったのか？とそこのと</p>

	<p>ころでどういう情報がなされたという理由でなったのかというのは絶対いるので、やはり、その当日変化するまでのやり取り等を情報開示してもらわなければならないし、大阪府教育委員会が言いにくいのであれば、例えば市民の僕らが出すとか、久永先生の名前で出してみるとか、すればいけるのではないかと思います。私の名前を使って労働基準監督署に行き、開示してくださいと言うのは可能ですから。</p>
府	<p>最初の指示に違いがあったという話は単純な言葉の言い間違いなんです。</p>
代表	<p>言い間違いってなぜわかるんですか？</p>
府	<p>そういう風に言ったつもりだったという話が…。</p>
代表	<p>それについて言いますか？それが一番問題だと思うんです。言ったつもりだったと言って、間違いの指示を出したわけですよ。指示に従ってやっている人がいるわけなのに、労働基準監督署がそれについて反省もしないのかと疑問なんですよ。「ごめん。ごめん。ごめん。あれ言うの間違えててん。」ボルトを一個買うとか二個買うとかの話では無くって、労働基準監督署がするものすごく大きい判断を口頭で、しかも言い間違いましたなんてそんなことがあってはならないのです。僕はそれが信じられないのです。大事な問題が発覚したにも関わらず労基署が言い間違えましたなんて、それで終わりですか。労基署に対してもきっちり反省してもらわないといけませんよ。絶対に。</p>
府	<p>その部分については、事前に再度の確認の中で現場できちっとした対応をしたのは間違いなので、最初に封じ込めという話をおっしゃって、囲い込みのイメージで封じ込めとおっしゃって、結局、囲い込みで最後、指示し、やっていますので、あるべきものではない、あってはならないとおっしゃるのであればそれはそうかもしれませんが、その件については少なくとも間違いではないことはしてたと。そういうことを軽々しく口頭で間違えることに対していかどうかという判断は、お話できることでは無いんですが、そういった状況ではあったということです。今、久永先生がおっしゃった話、この時の指示についてどういう風な記録が残っていたかは確認させていただきます。</p>
代表	<p>それは岸本さんがやってくれはるんですね。</p>
府	<p>とりあえず私の方から…。</p>
代表	<p>それでアカンって言われたら、僕の方から。</p>
府	<p>たぶん、アカンっていう事は無いと思うんですが。</p>
専門家 永倉先生	<p>アスベストの違法工事について労働基準監督署に情報公開請求を何度かしているんですけど、大体黒塗りで、要するに労働安全衛生法というのは労働者を守る法律なので、一般に開示出来ないという話が多いんですね。今話を進めるんだとすれば、委員会でどうしても証言が必要なので出て来てくれという話の方が、実際調査した担当者に出て来てもらって話を聞くという方が効果的かなと思うのですが。大気汚染防止法で届出義務が当然、府の方にある訳なので、そちらにも同じ内容の届け出が出ているはずですから、それで届出の内容から、どういう指示が出たかという推測をすることは出来るのではないかと思いますけど、府の担当者からお話を聞くということになると思うんです</p>

	が、労基については非常に素人問題みたいなところで間違ってるということが大きな問題ですので、情報公開請求も含めてやった方がいいと確かに思います。ただ、ちゃんと話を聞くには呼び付けて聞くという方が効果的かなと思うんですけど。
代表	ちなみに、もし、黒塗りばかりで来たときなんですけども、私も仕事の関係で近畿の厚生局に資料提出を求めて、黒塗りばかりで意味ないじゃないかということで、最後は厚生労働大臣のところまで文句を言いに行っ、厚生労働大臣から、黒塗りを外した形で出しなさいという指示を出してもらえる場合もあるので、明らかにやっぱり行政側が黒塗りしてるという時は、上の方へ上の方へ持って行って、ことを大きくすればするほど労基署も困ると思うので、きっちり岸本さんの方で。僕は黒塗りのやり方で仕方が無いなと絶対思わないので。必ず、厚生労働省まで行って、ちゃんとおかしいんじゃないか、出しなさい、黒塗りを明らかにしろということをやってもらって、僕は個人的でもやりますので、そのつもりで労基署に開示を求めてください。
府	労基の方に話させていただきます。はい。
専門家 東先生	よろしいですか。労基に確認をお願いします。市の方も併せて確認が必要かと思しますので、よろしくをお願いします。他の御意見ございませんでしょうか。
代表	アンカーの件ですが、もう一度、安積さんに質疑をやっていただいて、それで答え無ければ、空中で飛散してる訳ではないんで、最悪は軒天をめくったら見る人見たらがアンカーを新たに打ったのか打ってないのか、見たらわかると思いますわ。
府	安積さんの方には再度。今の話なんかは。
代表者	アンカーなんか一切やってませんと言うのであれば一回現場で見て新たに見る人が見て新たに打っているのか打っていないのか。
府	全面のボードを取ってということですか。
代表	少なくともランダムでまずやっていくとかね。
府	ランダムですか。
代表	それは全部めくるのが良いんでしょうけどね。
府	安積に対してはこの話のあとに無かったということは確認をしております。そういう状況の元で疑義があるということなので、どっかサンプルでもいいから開けて見たらどうかと言う意見。その範囲についてはその全部という話でなくてもいいということで、軒天外すか外さないかは、大きな話になるので、そういうご意見があったということで協議をしていただけたらと思います。
代表	もう一回だけ確認お願いいいですか。今の軒天を外す部分をね。前回の1月の会議の時も先生方の話を含めて完全除去しかないじゃないかと話があったので、それらを含めてようするに当然、全面はがすわけなんで、そういうことを今後あるということの可能性を含めてこれからの作業を進めてもらいたいのと、もうひとつ、岸本さんの話しているところが気になったのですが、これも確認してもらいたいのですが、東畑さんの監督というのはどこまでを監督というのですか。先程、事務長さんがおっしゃっていた時に東畑

	<p>さんがこうこう言っていました。いやこうこうだけど全数検査をしていないといくつか見た段階で判断をしたのではと言っていましたけど。僕、東畑さんにいくら払っているのか知りませんが普通、監督するというのはきっちり見るもんちゃうかなと思うのだけど。もともとそういう監督とは一部だけ見るだけでだいたい、おおよそこれで行っているでしょうということが通例なのか。大体僕らが東畑さんらとやりとりの時にものすごく頭カチン、カチンときたからね、ええかげんなあれで監督と言いながらなんぼもらっているんやと、最後までは頭をさげませんでしたからね。東畑はね。ぼくら関係有りませんと。そんな人間が監督していることに対してはすごく疑義があるので改めて、今日でなくっていいので元々そういう現場監督の立場である、所謂、僕らしたら監査法人なので、仕事と仕事に見合ったお金なのか府としても今後のことも含めて検証を教えてください。</p>
府	<p>はい。それもお時間を頂きたい。多分、主要な中でも本当に主要な部分とそれから例えば、これはたまたま飛散になったのですけど。飛散になる前の段階では外したところが確認するのは主要な工事にならなかったと思うのですけど。どの辺の重みがあるのかと思うので。そこはちょっと確認させて頂きます。</p>
代表	<p>これまで先生方が言っているように、今での業界が当たり前やったやつが結局アスベストというものに対する認識が甘いのと、そこら中にアスベストの建物があるということと、平気で潰しているところを見直さなアカンのがね、今回のやつだと思うので。やっぱりそういうところを含めて、業界の中でも当たり前だったやつも見直しがあるでということもしていただきたい。ミスの温床になっている。</p>
府	<p>はい。おっしゃるとおり。今の特に、今回のアスベストの飛散事故が本当になんていうか少し判る人がキチっとおれば、防げたところが沢山あったのを機会を逸している部分が沢山あって、それをどういう風に防止していくか、今後どうするかがたぶんこの協議会の中の一つの大きな課題であって、それを受け止めて我々が今後どういった工事発注をするのかに繋げていくのかと思いますので、考えさせていただきます。</p>
専門家 東先生	<p>他いかがでしょうか。アンカーの件は安積さんも含めてどこで何があったかというのは、かなりグレーのところが多いと思うんですね。そういう意味ではもう一回確認をする必要があるのかもしれないですね。他いかがですか。久永先生。</p>
専門家 久永先生	<p>11月の初めに軒裏のボード撤去が終わりましたよね。撤去した後の星印のアイデックス物流さんが発見するまでの間は軒裏はオープンな状態だったんですかね。</p>
府	<p>そうです。オープンです。</p>
専門家 永倉先生	<p>最初に小阪先生もおっしゃられたんですけど、ヒアリングを確かにやったんですけどもどのくらい信憑性があるかというのが色々あって、というのはやはり、事故、事件が発覚した直後に色々話を聞いている内容と、今回ヒアリングをしている内容が大きく違うという指摘なんかも色々ありましてですね、その辺の事は加味して考えないといけないかな、と思ってます。で、我々のこの協議会がその一つ正式に委嘱されている訳ではな</p>

	<p>いですが、期待されているのが、どのくらいの曝露があって、それに基づいたリスク評価が可能かどうかとそういうことだと思っんですけども、信憑性がないということだと、やはりそこは、有り得た飛散みたいなものをですね、大きめに見積もるということをやっていくしかないのかな、と思います。またそれが真相究明というか、何があったかというところがはっきりと確定した段階ではないんですけども、これ以上ヒアリングを重ねて新たな詳細が分かるかという、どうもそういう感じもしませんので、やはりどの程度のところ、正直な話をしてもらってるのかどうなのかというのは、ある程度、こちらです飛散量を加味するということと相殺していくという作業になるのかなと思っんですけども。まあ、これからヒアリングを続けるなり、情報公開請求なりしてですね、細かく詰められるべきところは詰める必要があると思っんですが、それをどの辺までやるのか、限界がどの辺まで来てしまうのかということ、あとは今までの過去のデータの外層ということを考えていく必要があるのかな、と思っんですが。まあ今後の話ということになります。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>ありがとうございます。私も今の意見は賛成です。まあ、ヒアリングはどこまで本当の事を喋ってくれるかというのは、やっぱりちょっと濁らすこともありますので、そこで不確定なところに関してはですね、評価のところである程度、幅を持ってですね、最大限評価をしていくということと補っていくということとしかやむを得ないのかなという感じはします。他いかがですか。よろしいですか。じゃあアンカーに関してはこれから一部、労基署さんとか安積さん含めてですね確認の作業を行っていくやり方に関しては、別途議論させて頂きたいと思っすし、しっかり確認も行っていくということですね。あと全体の中で不確定なものはどう曝露評価できるかというのはまた協議会の中で議論していきたいと思っす。それでは、次のテーマに移りたいと思っす。土嚢袋ですね、7番目ですけども、まずじゃあ事務局の方から説明をお願い致します。</p>
<p>府</p>	<p>すみません、資料8ページ目をご覧ください。7番の土嚢袋についてということで、安積建設Aさんの証言から読ませて頂きます。屋上に蓄積されていた土砂を高圧洗浄で集めた物を土嚢袋に入れた。屋上の土砂だけで土嚢袋20〜30くらいあった。土嚢袋について、一方的に不自然な状態で見せられていますけれど、その時僕らは現地に居たので、余程危険なものなら、その時教えてくれたら、すぐ走って回って、一日でも早く対応が出来た。ペントハウスに吹付けられているアスベストがそこから落ち、高圧洗浄により集められた土嚢袋に入ったのではないかと。ここは綺麗に施工されていたが、ペントハウスの庇を覗き込んだら、壁より奥にアスベストの吹き付けがあった。アイデックスBさん。こちらの勝手なイメージですが、分かってやっていると思ったもので、それならばゴミがあるはずと思っ、現場事務所を見に行った。ブルーシートの上のPP袋の中にアスベストの破片が入っていた。そこで写真を撮って、怖くなって逃げて行った感じ。高圧洗浄をしている人は、庇の上を清掃しており、石綿があるから、そうしているのか分からないですが、そういうのも落として入念に集めているのではないかと思っていまし</p>

た。アイデックスCさん。私たちが工事で見ている状態だと、ボードを取った後、アスベスト片が必ず落ちていることが多いので、普通だったらもっとあるだろうと思い、事務所にあるんじゃないかと話をしていたら、案の定、土嚢袋の中にあつた。落ちているであろう一番危険な青石綿がどこかに入れられているんだろうなど、もしかして袋にそのものを集められているのかと思っていた。行った瞬間から目の前に土嚢袋があつたので、紐を結んでいなかったんで、開けて見たらやっぱり入っていましたね。という話で。全部でいくつあつたか覚えていませんが、私が見たのは一つだけ。土嚢はブルーシートで囲んであるような感じですが、ブルーシートの中身は見えていません。土嚢に入れる作業については見えていません。府教委宮崎副主査。土嚢袋についてはどのようにしたのかは聞いていない。多分、安積建設が廃棄したと思う。東畑Dさん。屋上洗浄した砂を土嚢袋に入れたが、業者はその中にアスベストが入っていない認識であつたので、現場事務所の横に置いていた。Eさん。洗浄部分は見ていたが、砂が凄くあつた。砂をかき集めて土嚢袋に入れていたが、そこにアスベストが混入されていることは考えられない。Eさん。アスベストは屋上の搭屋の部分のデッキから落ちたものではないかということですが、屋上搭屋部分は直接見たがそのようなものはなかった。Dさん。土嚢袋に土砂を収集している職人もアスベストの講習を受けているので、見たら分かると思う。大伸建設Fさん。これは実際に屋上の洗浄を行った作業員の方です。屋上の積もった土砂を土嚢袋に入れた。数は25袋～30袋程度。土嚢袋を1階に降ろした後、どこに土嚢袋を置いたのかは分からない。土嚢袋を下に降ろした日は11月の後半だったと思う。22日とか23日とか。土嚢袋に土砂を入れている時は青いものみたいなのは無かつた。大島建材さんには質疑は有りませんでした。土嚢袋につきまして、写真等を説明させていただきます。前のパワーポイントの画面をご覧ください。土嚢袋の設置場所というのは、これ今回工事を行っていた校舎になりまして、その北側にある特別教室棟の裏側のパネルゲートの中です。この部分については、業者の作業エリアという事で区画して、業者が工事の資材とかを置けるような場所を作っておりましたので、このパネルゲートを開けて、アイデックスさんが現地に入っていかれたと。こういうブルーシートを見つけれられて、そのブルーシートの中を開けると、この中にこういうのが2つくらい、アスベストかなど。こんなものがあつたと。これ見て頂くと、大半は土砂ということだと思ふんですが、そういうものの中にあつたということの報告をされたということです。証言順番に書いてますが、屋上の土砂だけで土嚢袋が20から30あつたと。これが20から30あつたということですね。土嚢袋はブルーシートで囲んであるような感じですが、ブルーシートの中身は見えていませんと。屋上洗浄した砂を土嚢袋に入れたが、業者はその中にアスベストが入っていない認識であつたので、現場事務所の横に置いていたと。これは東畑の証言ですね。屋上に積もった土砂を土嚢袋に入れたが、数は25から30袋程度、これは実際に作業された職人さんの証言と、この中はそういった屋上の土砂が入っていたと証言されております。これですね、これが多分アスベストかなと思ふんですが、こ

	<p>のアスベストは何かということで、安積の現場代理人の方が、可能性として、ペントハウスにも吹付が一部あったので、そのペントハウスに吹き付けられているアスベストが落ちて、その落ちた物が、屋上の高圧洗浄によって集められて、土嚢袋に入ったということは考えられるといったことをおっしゃっています。アイデックスのBさんは、ブルーシートの上の、これですね、PP袋の中にアスベスト片が入っていたと。アイデックスのCさんは、私達が工事で見ている状態だと、ボードを取った後、アスベスト片が落ちていることが多いので、普通だったらもっとあるだろうと思い、事務所にあるんじゃないかと話をしていたら、案の定、土嚢袋の中にあったと。元々、アイデックスさんは高圧洗浄ですとか、故意にアスベストを取る作業があったと思われていたので、その中では、もっとたくさんアスベストがどこかに隠されているんじゃないかということで、こういうことをしましたと。わざわざ作業エリアの中に入って袋を開けてみましたと、いう風なことをおっしゃっています。行った瞬間から目の前に土嚢袋があったんで、紐を結んでいなかったんで、開けてみたら、やっぱりこんなものが入っていましたと。土嚢袋に土砂が入っているときに青いので巻いてあるものは、これは作業の方がおっしゃっている中で、作業の方は、アスベストという認識は無く、単に土砂をかき集めたと思っておられるということです。これが屋上のペントハウス部分の写真なんですけども、安積のAさんは、ここはきれいに施工されていたが、ペントハウスの庇、まあ奥の方を覗き込んだら、中にアスベストの吹付があったという風なことをおっしゃっていました。東畑のEさんはアスベストは屋上の塔屋の部分のデッキから落ちたものではないかとのことですが、こういう風なきれいな状態を見られていたので、直接、そんなものは無かったという風に思ったということを回答されていると、というのが、アスベストの土嚢袋の説明です。これはアイデックスのBさんとCさんがですね、元々アスベストの除去を故意にやっているという風なことで、このようなものを探して行ってアスベストを見つけたということなんですけど、現場にあったのは、ほとんどが屋上の土砂であったのではないかという話です。この辺りの状況について確認頂きたいということで、また前の方にパワーポイントの写真をきれいなものをお出ししていますので、ご確認頂ければと思っております。よろしくお願ひします。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>時間になりましたので、いま、この中で、ですね、いろんなご意見いただきましたけれども、その意見も含めてご意見等いかがでしょうか。この土嚢袋の中にアスアベストがあったという話です。</p>
<p>専門家 久永先生</p>	<p>この土嚢袋は、産業廃棄物として、しかるべき処理をされているわけですね。マニフェストがあって、どこに捨てたかもわかりますよね。今からでも、現物を見ること出来るんじゃない。ひょっとして。</p>
<p>府</p>	<p>それは無理でしょうね。</p>
<p>専門家 久永先生</p>	<p>やってみないと。案外一番上に置いてるかもしれない。</p>

府	1年半近く前のことなので。
府	ちょっと難しいと思います。
専門家 東先生	大阪府内ですか。
府	それは府内でない可能性もあります。
専門家 久永先生	以前、大学でこういう廃棄物を不法にやって、突き止めたという例がありますよ
専門家 東先生	どれくらいの期間のものを突き止められました。1年以上前の物。
専門家 久永先生	多分結構前の物。
専門家 東先生	調べることは…。まずは、どこに行ったのか。
府	マニフェストを調べてみます。そこに問い合わせたら、分かるか、分からないか言ってくれと思います。マニフェストにも時期もありますし、それがどのロットなのか。一度、マニフェストは再度洗ってみます。
専門家 東先生	他はいかがですか。よろしいですかね。直接曝露の評価に係る、もし土嚢袋がたくさん残っていればかかわる部分があるかもしれませんので、チェックだけは。時間もありませんので、次の窓の開閉状況にうつりたいと思います。事務局の方説明をお願いします。
府	9ページ目ご覧ください。■8. 窓の開閉状況という事で、安積建設Aさん、工事中窓を開けないで下さいという意味表示で、室内から窓を開けないように、鍵の部分を含めて大きくバツテンの形でテープを貼っていました。アイデックスBさん、窓が開けられなくなっていたのは、足場のあるところだけで、足場以外の窓は開けている状態。窓をピッチリ養生しているのではなかった。足場のすぐ横の窓からは開閉自由な状態だった。東畑Eさん、撤去の時は窓を閉め切って、外側をビニール養生で覆って、中を霧吹き上のもので湿潤化して、基本的には手ばらしをした。大島建材Gさん、軒天復旧作業時の校舎の窓は全部閉めていました。ここでは、窓の開閉状況という事で、前のパワーポイントをご覧ください。1階、2階、3階、これは工事のエリアだけの範囲の図面です。この工事のエリアの範囲に限っては、足場があるところ、全て①に書いてあるように窓が開けられなくなっていたのは、足場のあるところだけで、足場以外の窓は開けられる状態。足場のすぐ横の窓からは開閉自由な状態であった。ということで、この部分の窓ですね。この、ここに書いている図面の部分の窓が閉まっていたんですが、このすぐ横の窓、例えばこの辺りの窓ですとか、この辺りの窓、この辺りの窓については、開閉自由な状態であったことは間違いない、という風なことです。まあこんな風な形で工事中は窓は開けないでということで養生をしていました、という写真がここについております。

府	これはもう写真確認いいですね、ちょっと。
府	これだけなんで。まあこのバツテンの写真何で、もうこのまま、これについては要は今後、シュミレーションするにあたってですね、窓の部分については、要は先ほどいったこの平面図のこの範囲ですね、この写っているこの1階2階3階4階の部分は開けられない状態でしたが、それ以外のところは自由だったということが条件になるという風なことを確認いただければと思っております。
専門家 東先生	はい。じゃあ議論のほう移りたいと思いますけど何かご意見等いかがでしょうか。
専門家 永倉先生	業者さんの方の話から窓は開いていないということは、ほぼ一致しているのかなと思うんですけども、先生や生徒さんたちで、いや、あのとき開いてた、というような話というのはないんですかね。その辺りは、えっと、そういう作業されてた。
府	はい、学校の先生方からとか事務の方々から、そのアンケート的なものはいただいてまして、その中ではその開いてたという証言はなくてですね、基本的には皆さん覚えていないことが多かったんですけど、確実にその工事エリアについてはですね、閉まっていたということがほとんどの回答やと、ただこれも絶対という話ではないんですけど、調査した中ではそういった話でした。
代表	あの、工事しているところの、そここれバツテンしてます、バツテンしてますけども、要はガムテープで貼っているっていう、だから開けよう思っても開けられへんっていう認識してしといたらいいんですか。
府	要はそれを捲って。
代表	捲らんとあかんゆうことですね。
府	そうそう。そういうことですね。
府	はい、あの要は鍵はこうぐつとなんか例えばワイヤーかなんかでとかそんなところまでしていなくて、単純に意思表示としてバツテンをしていたということです。
専門家 永倉先生	それ工事エリアのところの外側？
府	これ内側です。
府	そうなんです。工事エリアの外側については、別に開閉自由なので、どんな風な使い方してたかはわからないと。例えば
専門家 永倉先生	廊下は共有？共有っていうか。
府	廊下もだから、足場のあるところまでは閉まってました。
専門家 永倉先生	閉まってた、そこで閉じてあった？
府	その足場に面した窓は閉まっているという状況です。
専門家	あ、はいはい。

永倉先生	
府	はい。
代表	2回目か、3回目の要するにもう1年以上前のまだ皆さんがと私たちがやりあっているときの保護者のお母さんかお父さんかは、暑かって、先生が閉めとけいうたけど、戸開けてたという話を覚えてはります？あれは、要はその足場を組んでいるとこじゃない部屋の話やったんですかね？
府	という風に理解はしているんですけど、それが絶対かと言われたら、そこも、もしかしたらこの評価の中で、例えばその不確かさについて、一定、重みづけをつけて評価しなければいけないことになる可能性はあります。ただ、前提としてはそういう状況であったという風なこと、ただそれをそこまで考えんのかというのはちょっと評価の中でね、そののところまで例えばそういう可能性もあったよねと、そこをどこまでみるのということとはもしかしたら必要になる可能性もありますけど、ちょっとそこはなんというか今ここでという話。確かな事実としては、あるものについて言う、とそこについては閉まっていたという事実しか我々は確認していないという状況なんです。
専門家 東先生	ただ今のお話しは扉の話ですかね、窓じゃなくて。
代表	窓です。
専門家 東先生	窓のお話しですか。
代表	はい。
専門家 東先生	扉はただあの4階も渡り廊下に行く扉は開いてた。
府	開いてますね。
専門家 東先生	というのは話としてありますよね。それは通路として確保していたわけですかね。これ1階から4階まで全てですかね。
府	渡り廊下の扉って、2階3階はいつも開いてますよね。4階は開いてたんですかね。
学校	4階は、はい。
専門家 永倉先生	4階は開いている。あとは閉まっている？
学校	3、2（階）はいつも開いてるんですよね。扉の前ですね。
学校	扉というか、中廊下。
専門家 東先生	開いてる状態ですね。
専門家 東先生	2階、3階っていうのは、外からも渡り廊下の窓っていうのは閉まってる状態。

府	そうですね。
専門家 東先生	閉まっているというか、窓がある状態ですかね。4階は無いという状態。
府	だから、この話になるんですけど、たぶん空気を伝って入ってくる経路という話の中では、その4階ですとか1階ですとかの部分、廊下が開放の廊下になってて、ドアが開いてたとかっていうのがあって、一番経路として考えなければいけない話になってくる可能性がありますよね。逆に2階3階ってのは、閉まっているので、あんまりその空気として出入りをするのは少ないのかなあと、そういう想定は考えられます。
専門家 東先生	4階ではアスベストも0.9本見つかったのは、確かその、渡り廊下に近いところの部屋ですよ。まあ、その扉は開いてたんですよ。通路として確保してみたいで、しかもまあ、そこからの窓が無い状況、無いところですよ、4階のね。
府	4階は、通路が開放の通路になってて。
専門家 東先生	そこから入ってくる可能性はありますね。
府	だから一番その、空気として入ってくる可能性としては、さきほどおっしゃったように、4階の部分と1階の部分ですよ。その通路が開放ですので、空気として入ってきやすい状況なんですよ。
代表	換気扇ってあるんですか。換気扇のある箇所って、あったんですか。
府	足場ですか。
代表	教室に。
府	各教室には換気扇はあります。
代表	そこは全て天井扇？
府	2種類あります。そういう、天井扇というか、ダクト方式の換気扇の部屋もありますし、あと普通の換気ファンですね、あのこういうプロペラ式のファンの部屋もあります。で、その期間というのは、冷暖房が使えない期間になってたので、契約上は運転できないという風な状況にはなっていたということです。特殊な契約をしまして、今、各部屋に空調機付いてるんですけど、空調機は夏期とか冬期とか限られた期間しか運転できない契約になってて、それは換気と併せての契約になっているので、その期間というのは、そういう契約期間っていうのは、外れてる時期という風に書きました。ということで、基本的には回っていないであろうと・・・
代表	例えばね、教室だけじゃなくて、たぶん間にトイレとかもあると思うんですよ。そういうところの換気扇というのは目張りがされてるのかどうかっていうのは、結構、換気扇って空気が入ってくるんですね。パカパカ開くじゃないですか。

府	トイレはね、あの間何か所かあるんですけど、あのファンっていつも回ってますよね。そのファンは回ってたと思います。トイレの換気ファンは、屋外に出すファンですけどね。だから排気ですけど。
代表	排気はずっとされてるということですね。
府	だから、そういう意味では引く力があるということです、おっしゃるように。
専門家 永倉先生	直接ですね、ヒアリングに関する窓の開閉というよりは、今、お話があったように、例えば、排気口なりですね、教室のどこにあるかとかで、空気がその時部屋の中でどういう風に流れるのかとか動くのかっていうのは、別途考える必要があるのかなと思うんですけどね。っていうのは、天井裏にはアスベストが吹き付けで残っていたわけですし、で、すぐ窓の外では、除去工事らしきものが行われてきたわけだから、外の空気が天井を通過して中に入るような経路があったのか無かったのかっていうのは、非常に重要な要素だと思うんですね。ただ、換気口っていうのはどこにあったか、今のところちょっと私は頭に入っていないので、そこを業者にヒアリングとはまた別にですね、教室内の空気が、10月頃ですか、どういう風に動くのかっていうのは、調べる必要があるのかなっていうふうに思いますけれども。
代表	一つ確認あるんですけども、これも最初の一回目か二回目の説明会をやってる時に、学校側は子ども達に工事期間中は窓を開けないようにということを言われてたんですけども、先生、窓を開けないようにというのはこの対象のところのクラスに開けないようにと言ったのか、さっき言ったこの図面に載ってないクラスというか全校に言っていないんですか。対象のクラスだけ言うてるんですか。そしたらね、やっぱりちょっとあれですね、ガムテープ貼ってますけども、先生は窓を開けないようにと、言うたけども、クラブから帰ってきた、いや体育から帰ってきたら暑かったから窓を開けたという子どもがいたというのは、その議事録でもわかりますけども、言うてる子どもさんはいます。それが横のクラスとかいうんやったらあれですけども、今、おっしゃってるんが、その対象のクラスだけやったらね、いたというコメントは、僕は聞いてますし、一回目か二回目の議事録見たら残ってるんじゃないかなと思います。もうひとつ横っちょの部屋が対象で無かったら、当然、窓のね、開けてるということは、そこから入ってきて、子ども達が行き来するわけやから、ひつついたり、なんかしながらいく可能性は充分あるというふうに考えているんですけど。例えば一年どの組までは対象やったけども、二年一組からは対象でなく、横のクラスまでで。その子達は窓を開けたり閉めたりしていて、そこから入ってきてる。
専門家 永倉先生	そのへんの日付をもとに、正確なものは難しいと思いますけども、大体こんな窓とか扉の開閉があったというのは、業者さんのヒアリングとは別になるんですけども、学校側の資料として出せるんでしょうか。
府	そういうのはたぶん難しい。
専門家	難しい。

永倉先生	
専門家 永倉先生	はい。想定するしかない。
府	だから、それこそ、例えば確率的な話をするかですね。若しくは、そこを少し多めに見 といて、それでもなおかつ、そんなに大した量にならないという話であれば、それもそ ういうやり方もあるだろう。そこは正直、不確定なことがむちゃくちゃあるので、その 中のひとつのもんが入ってくる。ただ、重みとしてはその不確定の中の重みの中の僕は 低い方やと思ってのんですけど、もっと大きな流れがあって、その流れプラスそんなこ ともあるやろうという話になるのかなという風に思う。たぶん一番ひどい飛散のルート というのを、まず、最初に洗い出して、そこにどんだけ足し込んでいくかという話にな るのかなと思ったりするんですけどね。
専門家 永倉先生	ひとつのルートはそうだと思うんですけども、もうひとつ、教室内の測定値 0.9 という のがあるわけですから、その 0.9 というのが生徒達がいなくなって、何時間ぐらい後に 0.9 に下がっているのかという減衰の曲線から逆に生徒達が出たとき、どれぐらいの数 値があったのかというのを、もしかしたら推測できるかもしれないという、ちょっと思 ってまして、ただ、それを推測するに空気の流れとかですね、そういった他の要素を考 えないと、本当に作った数値になってしまうので、なかなか難しいと思いますけども、 ただ、少なくとも生徒がいなくなって何時間後ぐらいに 0.9 という測定値があるとい うのは、ひとつ手がかりとしてあるので、生徒達が居た時にどのぐらいの濃度がありえ たかというのは逆算できるかもしれないとは思っています。
府	そういう意味で、次回以降の話になると思うんですけども、色々飛散がこんな風に入 ってくるであろうといういくつかのシナリオがあって、経路のシナリオがあって、それ にプラスそれによるたぶん飛散量の足し込みの方から攻めていくのと、現に 0.9 本とい う数値があるので、現に 0.9 本がどこまで評価できるのかというところから攻めてい って、その間の部分がたぶん、まあまあ堅いところかなという数値になるのかなと、勝手 に私が思っているんですけど、そんな風な評価をしていけば、例えばあまりに大きくもな いですし、小さくもなり過ぎないぐらいの評価ができていくのかなという風に思ってい るんですが。
専門家 小坂先生	そういう評価は大変難しいんですけども、私の経験では密閉されたところで、リットル あたり百数十本、アモサイトの飛散があったところで1週間経っても半分位までしかな りませんね。そういう減衰というのは期待できないと考えていいと思います。0.9 本と いうのは土、日どっちでした？
府	土曜日です。
専門家 小坂先生	土曜日ですね。前の日から1日で0.9本という意味では、これからじっくりそういうと ころ検討していくんですけども、今そういう話が出てきたので、私の経験談で話をす ると、前日ものすごく高かったということにはならないのかなと思いました。そこらこ

	れから検討の課題だと思います。
専門家 東先生	時間も迫ってますので、ばく露の評価の中については、しっかりこちらの方で議論していこうと思っています。そのための情報収集ということですので今現在、非常に重要ですのでこちらのほうに移っていきたいと思います。時間もあと一分位ですけども。
府	<p>9と10につきましては例えば9はですね。想定されるアスベストの飛散状況と言う話です。これは業者さん達がこんなことが考えられるんじゃないかとおっしゃっている部分なので、これを見ていただいて次にしたいことは何かと言うとシナリオ作り、先ほど申しましたように、どんな経路で入りこむ余地があったのかということを作りこんでいこうと思っています。ただその参考に先生方に読んでいただこうと思って作ったものなので、これは事故を起こした方が言っていること、見つけた方が言っていることなので単なる参考ということとと思ってますので読んでいただければいいのかなと。実際は先生方にご相談かけて、こういうルートじゃないかという風なところを示していきたい。このところは特段読んでいただければいいかなと思っています。あと10のその他の内容でご紹介しておきたいところがありまして、11ページのアイデックスのCさんがおっしゃっている内容でして、11月17日のことをおっしゃっています。この方が現地におられて、その時に子供達がどこに何時間位いたということをおっしゃっている場面があって、これがもしかしたら今後、この場面のばく露量を考える時に必要かないことがあったので記載していると、それ以外のところにつきましては、大きな話は、勝手言うともまずいですが、他の工程の中で気になるキーワードがあったところだけ書いています。特にアイデックスCさんのところだけ読ませさせていただきます。11ページのアイデックスCさんの11月17日土曜の状況についての③番からです。北側の特別教室棟の一階でソフトボール部が練習をしているのを見た。南側の棟は飛散しているところのエレベーターの階段の付近で、何部かわからないが階段を登り降りしていたと思う。階段を登り降りしていたのは、サッカー部だったと思う。10人以上、もしかしたら20人30人いたのかも知れない。体育館でバスケットの大会みたいなのをやっていたのか、そういうところ（校舎の西側）で走り回ったり練習をしていたと思う。⑦. バスケットは、他校の生徒もいたんじゃないか。100人以上いたんじゃないかと思う。⑧. 他には、西側の渡り廊下に写真が貼りだしてあって、そこに2、3名の生徒がいたと思う。⑨. 工事区画の内側については、あまりすれ違ったりしなかったが、ものすごく東側までは来ていなかったと思う。⑩. 体育館は2階の入り口が校舎と繋がっている造りだと思いが、その2階のところで、うろうろしていたように記憶している。この土曜日に子供達が出たという状況をおっしゃっていますので、この部分については今まで出てきてなかった証言ですのでここだけご紹介させていただきます。後はおそらくそれほど大きな話はなく、もう一つ11ページの東畑のDさん、Eさんのところで幕板金物設置工事と書いてまして幕板金物というのは今回の庇の上に新しく鼻先をつけるために金物を設置している工事があります。証言される方がだれもおられなくて東畑の証言だけしかないの</p>

	<p>ここであげさせて頂いています。⑦です。Eさん、幕板金物設置工事については、屋上のステンレスのフラットバーでL型に庇の上からモルタルを受けるようにして設置している。⑧L型部分は溶接だったので振動とかは無かった。⑨軒裏にあったアスベストが飛散するほどの振動ではないと思うが、ちょっとわからない。⑩作業時の養生については、足場があり外部にはメッシュシートがあった。石綿ボードの撤去後なので防護関係は無かったと思う。⑪ステンレスの金物を取り付けるだけなので、廃棄物も清掃もない。軒裏に接触する作業でも無い。ここも、もしかしたら一部、評価をしなければいけない所になるかも知れない。と言うのは、庇の上で金物を付ける作業があったので、溶接でしているので振動は無かったという話があるんですが、そこはもしかしたら幾分かの評価はしなければいけないと思ったので、この部分だけ挙げさせてもらってます。他は恐らくそれほど、以前に紹介した内容を足してる話だけですので、ご紹介はそこまでとさせていただきます。以上です。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>ここは何時まで使えるんですか？あと5分10分とか。9時まで？ 用事のある方はここでご退席頂いてもいいですけども、もうあと5分10分とかよろしいでしょうか。今のご説明に対してですね、いろいろ議論していきたいと思うのですが、いかがですか。ご意見等。じゃあ久永先生お願いします。</p>
<p>専門家 久永先生</p>	<p>幕板金物の設置工事で、溶接で付けていったと。溶接するときは、普通は溶接面のクリーニングとか、削るとかあるんじゃないでしょうかね。そうすると結構、振動なんかあっても不思議じゃないような気がするんですが。</p>
<p>府</p>	<p>この幕板金物設置工事の所だけね、ちょっとね、実はそういう意味で書いたのは、あまり証言として確かなものが出てきてないので、そういった要因も、もしかしたら今後考えていかなければいけないと思って、ちょっと載せたという状況です。善意に解釈するとほとんど振動していないという話を聞いているので、あとはそれをどう評価するかというのはちょっと、今後この協議の中で考えて頂ければなど、思っているところです。</p>
<p>専門家 東先生</p>	<p>他いかがでしょうか。 これ11月17日の確認をこれアイデックスさんのお話なんですけども、これアイデックスさんしか11月17日の確認状況は無いんですが、実際には他の日に関してはこれまた、学校さんの方と生徒さんのクラブ活動の状況とかですね、昼休みの状況とかの確認をしていくことにはなるかと思うんですけど。</p>
<p>府</p>	<p>これも要は、どれだけの曝露量がそこであったかということによって、どれだけ詰めていかないといけない話かと思っているところで、本当に非常に大きな量があったという事であれば、もう少し詳しく進める必要もありますし、いまのところクラブの記録とかなんとかあろうかと思いますが、こういう風な形で具体的に数字が出ているのは、このアイデックスさんの表現だけでしたので、こんなような表現があったという風なところで今、ちょっと皆さんにご紹介させていただいているのが実情です。</p>
<p>専門家</p>	<p>他ご意見いかがでしょうか。</p>

東先生	
代表	大島建材さんなんですけど、アスベスト工事は行っていないと書かれているんですけど、これ封じ込め（囲い込み）の作業されていますけど、こういうのは、したことない人でもいいもんなんですか。軒天の復旧ですか。天井ボードとか貼られていますけど。
府	これは大島建材さん、たしかアスベストの資格者はどっか別の会社をつけていたんですよ。一応その作業主任者というのがきちっと上の会社において、その人の元でやっていたということです。作業を。
代表	それは誰ですか。
府	その作業主任者ですか。
代表	はい。その人の聞き取りとか、名前も何も出てきていないんですが。
府	その方の聞き取りが出来なかったんです。
代表	そういったことは先に言ってもらえないと、まだ聞かないといけない人がいるんじゃないですか。
府	実は、ご協力を頂けなかった方というのは結構おられて、我々の方でもお願いしたんですけども、中々ご協力して頂けないという方が多かったのでその中の一人ですね。その方は。
代表	意味わかるようでわからないんですけども、11 ページのところでは弊社がアスベスト関連の工事は行っていないと書いてて、やっぱりそれはつじつまが合わない状況。どこどこはどどこでもってますと言うてるけど、この人はうちの会社はやってないと書いていますよ。だから下請けとかを含めても関連のことはやってないと書いているのに、やっているというところの回答があるっていうのは、すごく何を今言われても僕はおかしい。やってないと書いています。だってここ。
府	すいません。ここ正直なその言ったことをそのまま置いてるだけで、確かに、おかしいと言われればおかしい話し。
専門家 東先生	これはですか。関連工事をやっていないこと、岸本さんもう一回確認をお願いしたいと思うんですけど。
府	はい。
専門家 東先生	今回の件のことを言っているのか、それとも別のことを言っているのか
府	たぶん別のことだと思います。だからアスベストという特に工事に専門にやっているところではないという意味合いのことを言ったと思います。
専門家 東先生	今回また今回の軒天を取付ける工事というのはアスベスト関連工事という風に当たらないということですか。
府	たぶん認識していないですね。
専門家	認識していない。

東先生	
代表	すいません。前回もらった太いファイルのところに、大島建材さんは基本的に囲い込み工事をされないのでしょうか。しないです。という回答があったんですけど。したことが無い業者に工事をさせたということですか。ちゃんと出来ているのでしょうか。
府	囲い込みについてはシールとかを含めて確認をしているので出来ていると思います。ただ、その過去に経験があったか、無かったのかというと、無かったという話しかないとします。
代表	確認ってどなたがされたんですか。
府	現場が出来た時に、その写真にあったような確認作業があるので先ほど見て頂いたシーリングを打ったとかの確認とかをしていますので、それは東畑さんがやられていると思うんですけど、作業としては。
代表	宮崎さんはされてないのでしょうか。
府	終わった後にですか。
代表	もちろん囲い工事完了後の確認というのは、これがちゃんとミスなく出来ているんですよという。いや僕が気にしてんのはちゃんと出来ていない状態、不備がある状態で現状があったらダメなんじゃないの。危ない状態じゃないんですかという。
府	改めて、だから全体を見てまわったというのはちょっとないですね。
代表	東畑の人もこれは見られて無いんですか。
府	東畑はたぶん現場で見ていると思いますよ。はい。写真で写っていた東畑の監理者と思うんで。
代表	監理記録書って出ますよね。
府	はい。出ますね。はい。
代表	ホームページにアップしてもらえます。
府	監理記録書をアップするんですか。
代表	また次までに、っていうのは時間がかかるじゃないですか。
代表	だれがいつどこでどういうふうにチェックされたのかなあと。
府	そしたら監理記録書のデータを送らして。
代表	メールで個人的にいただいてもいいですけど、他の方とかが気にならないのかなと思って。
府	どういう風に抽出するか、併せて考えてみます。
代表	はい。
専門家 東先生	代わってよろしいでしょうか。
専門家 山中先生	アイデックスさんのCさんの11月17日の状況ですよ。こういう情報、たぶん初めて出てきたかなと思うんですけど、評価点をどこにとるかという上で非常に重要な情報

	<p>だと思っんですけど。これはほんとにこの日だけの話なので、なにかその通常だいたいどのへんで生徒さんがいることがあるとか、そういうの、そんな正確なものでは無くてですね、クラブの顧問の先生とかが把握されている中で、このへんには生徒がいる、何時間いるかまではわからなくても、そういう可能性があるという情報を整理してこられたらどうかなど。</p>
府	<p>それは、今後作業として進めていく。先生おっしゃるように、なかなか正確な情報って、たまたま今回、アイデックスさんが書いたこの書き込みっていうのは、すごく具体的な書きこみをされていたので、こういったようなイメージのものがあるという風なことを認識していただきたいということを踏まえてお渡しさせていただいたんですけど、本当に申し訳ないがバクツとした状況になるかもしれませんが、例えば、屋外、昼休みの時間帯にはだいたいどれぐらいの子がそのへんにおるとか、放課後どんな風な状況かということ、本当に非常にざっくりしたものになるかもしれませんが一度調べてみます。</p>
専門家 山中先生	<p>人数はそれほど問題じゃないということはないんですけど、人数よりもどこということですよ。可能性として場所がわかる。</p>
府	<p>たぶん、空気の飛散の話をされると、やっぱり心配されるのが皆さん中庭のところという話になると思うので、その中庭のところどれぐらい近接したところに子どもたちが集まる可能性があるかというのは、たぶん大事な話になることだと思うので。はい。</p>
専門家 東先生	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。 時間も参りましたので、ここで締めたいと思うのですが、今後考えていくにあたっては、これまでの情報を踏まえた形で、いま、山中先生の質問にもありました形で、生徒さんがおられた状況、飛散があった状況、シナリオを持ってシミュレーションしていかなくちゃいけないと思っんですけど、その作業にもぼちぼち入れる段階に来てるとこもあるかと思っしますので。ただ、それにしてもですね、不足している情報がいくつかあるかと思っしますので、今日の幾つかのご指摘があった確認事項をお願いしたいなという風には思っます。何か事務局の方から今後につきまして、何かありますか。</p>
府	<p>これで、一旦ヒアリングの内容についてはご説明差し上げて、これを元に今後進めていくことになろうかと思っのですが、次は先ほどから話していますように、実際にアスベストが校舎内に入る、もしくは校舎外にどれだけのものがあつたかという風なことを状況、どういふことがシナリオとして考えられるのかということですね、詰めていきたいと思っまして、これに関しては飛散の関係になりますので、工学の山中先生とか、西岡先生とか、小坂先生とか、永倉先生のお知恵を借りながら、一旦この場で出せるような案というのを作っていきたく思っしています。その案を作れた段階で、ですね、また全体で集まっただきまして、そのシナリオについて、どこを補強すべきか、もしくは、もっと必要であるものということを精査していくという会を次回にしたいと思っしております。</p>

専門家 東先生	ありがとうございます。先生方、なにか？
代表	一つだけ確認なんですけど、今日、頂いている第3回議事録概要版ですけども、きっちり起こしている分もあると認識しとったらいいんですか？私、ちょっと遅れてきてあれなんですけど。
府	はい。あります。
代表	それは私たち保護者とか地域の人がマイクで発言している分については起こしてる？
府	はい。起こしています。
代表	わかりました。もう一つだけいいですか？協議会のほうから外れるんですけど、新入生がもうすぐ入ってきて、たぶんこの問題、また色々、話になると思うんですけど、久永先生に7月に一度、学習会をしたときにですね、自転車置場と校舎の北側の倉庫がアスベスト使っている建材じゃないかなという指摘を受けたんですけども、あれはまだあのままだんですかね？
学校	北側の方の倉庫の方は、専門家の先生方にどの形で対応したらいいのかというのを聞かしていただいて、対応のほうを終わっております。ただ、自転車置場なんですけども、自転車置場の方についても注意喚起を生徒達にしないといけないということで、考えてるんですけど、ただ、自転車置場のほうは大阪府内の学校がほとんどそういう形で作られておりますもんで、委員会のほうにどんな形の通知文、注意喚起の文を出せばいいのかというところへんを、ずっと前をお願いしてるんですけど、まだその返事が無くって、そのままになっている。
代表	渦中にある金岡高校がこの状態でね、なってくると、学校も放置してるんかという話になるんで、当然、僕も質問をようさん来るんですよ。OB、今度、入る子がようさん知り合いがおるんで、やっぱり大丈夫ですよと言いたいんでね、予算の問題も可及的速やかにやらな、指摘されているんですからね、特に府の学校、皆そうというんであれば、それ、もう即ね、やるべき話で、少なくとも金岡高校は大至急、年度内にはやってもらいたいです。
府	成形板の対策をという話だと思うんですけど、成形板の対策を全校進めるところまでうちのほうも議論できてなくて、ただ、今日みなさんにご報告しようと思っている話がありまして、というのは、平成26年度の予算の関係、委員会の方で、今、案が出ておりまして、今回の議会で承認されればということになるんですけど、その案の中では、今回、金岡の校舎に伴うアスベストの飛散事故に対応ということで、要望書も皆様方から頂いております、それを踏まえてこの協議会を進めていて、その中で一番大きな話として、アスベストを囲い込みされている箇所を完全除去して下さいという要望があったかと思えます。それを受けて、実は来年、金岡のアスベスト除去の設計業務を出します。来年度にはその実施設計をしてですね、27年度から1年とか2年でできる話ではないと思ってます。というのは、今回のような事故が起きないように、ということで、安全対

	<p>策をしっかりと考えながら、ということであると思うので、それが2年、3年かかるか分からないんですけど、この26年度、先生方の意見も頂きながら、アスベストの除去について設計を進めたいと思っています。それが、やはり、先生方の思いとしてあると思うんですが、飛散性の高いアスベストについてはやはり早急に対応すべきだろうと。かといって飛散性の低いものはいいかという話ではないかもしれませんが、現実的な話として、そちらの方から進めていきたい。あと、飛散性の低いものについてはできる限り、注意喚起と、今、学校の方もそのあたりはしっかり見ていただいています、例えば割れているところがあれば、きちっとラッカーで止めて、飛ばないようにしていただくというようなことをしておりますので、そのようなことを踏まえた対応を進めていきたいと思います。</p>
代表	<p>完全除去するということは先生方がいままで疑問に思っていて開けてみたどうやったかということが見れるわけですね。</p>
府	<p>見れます。ただ、それ見るのは28年とか29年とか、30年とかになる可能性があります。そこまでこの協議会が待つのかという話もあるのかもしれないんですけど、完全除去するので、ただ、一点、完全除去と言いましても、解体しないと取れないところもあります。そこは申し訳ないですけど、残ります。ただ大部分の梁ですとか、地震が起きた時にほんとに飛散したら危ないところについては、ほとんど取れると思っています。</p>
専門家 東先生	<p>ありがとうございました。よろしいでしょうか、今のお話。完全除去に向けて動いていただけるということでございます。それはひとつの安心になるかと思えます。その事例を全国に発信できればと思います。時間が大変オーバーしてしまって、私の司会の不手際もございまして、大変申し訳ございませんでした。これで終了にしたいと思えますけど、一度、事務局にお返ししますので次回含めて再度お話しいただけますか。</p>
司会	<p>本日はたくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>次回の協議会についてなんですけど、本日協議いただいた内容を踏まえて、ちょうど年度末でもありますので、4月以降に開催を目途で調整するというところでよろしいでしょうか。はい、それでは4月以降ということで調整をさせていただきます。</p> <p>改めて先生方にご連絡をさせていただきますので、またよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第4回大阪府立金岡高等学校アスベスト飛散事故に関する協議会を終了いたします。本日は、どうもありがとうございました。</p>

以上